

当署管内の工務店に対するアンケート調査からみた今後の地元材販売についての一考察

鱈ヶ沢営林署 ○生産(賦)係長 木田 常雄
 業務課長 三橋 覚
 森林官 堀内 常雄

1 始めに

鱈ヶ沢営林署管内は、津軽半島七里長浜の南端に位置し、関係町村は4町4村にわたり国有林野面積は23,693畝である。管内の北部・東部の関係町村は金木・市浦営林署に接する青森ヒバの産地勢力圏，西は能代市を中心としたスギの産地勢力圏という木材文化のなかにある。

2 課題を取り上げた理由

我が国木材需要の自給率は平成元年が26.9%平成6年では22.4%と、年々低下してきており、管内製材所の土場にも多くの外材が見受けられるところである。

当署の素材生産は弱齢級の人工林スギということもあり、今年度1回目の素材公売では32%という低調な落札率であったことから、その後製材所訪問等の販売戦略を検討していくなかで、管内の新築住宅の実態，木材を扱う工務店の考え方，建主の依頼の仕方が話題となり、実態調査をすることにより今後の販売戦略の参考となるのではないかと考え、当署管内2町4村の工務店を対象にアンケート調査を実施したものである。

3 調査結果

- (1) 調査期間 平成8年11月～12月
- (2) 対象者は 鱈ヶ沢町，木造町，森田村，柏村，稲垣村，車力村の工務店40社で、そのうち、回答のあった20社のものをまとめたものである。

表1 工法別受注割合

| 工法区分 | 受注割合 |
|-------|------|
| 在来工法 | 88% |
| 2×4法 | 10 |
| 鉄骨造 | 1 |
| プレハブ造 | 1 |
| 計 | 100 |

表2 住宅外観別受注割合

| 外観別区分 | 受注割合 |
|---------|------|
| 洋風タイプ | 50% |
| 和洋折衷タイプ | 35 |
| 和風タイプ | 15 |
| 計 | 100 |

表3 住宅規模（延べ床面積）別受注割合

| 住宅規模別区分 | 割合 |
|-----------------------|-----|
| 30坪（99㎡）未満 | 2% |
| 30坪（99㎡）～40坪（132㎡）まで | 35 |
| 40坪（132㎡）～50坪（165㎡）まで | 44 |
| 50坪（165㎡）～ | 19 |
| 計 | 100 |

表4 依頼別受注割合

| 依頼別区分 | 割合 |
|-----------------|-----|
| 総額による依頼 | 58% |
| 坪（m2）当たり単価による依頼 | 30 |
| 場所別樹種指定による依頼 | 11 |
| 樹種指定優先による依頼 | 1 |
| 計 | 100 |

表5 構造材，内装材，外装材別使用樹種割合

| 箇所別樹種割合 樹種区分 | 構造材 | 内装材 | 外装材 |
|-----------------|-----|-----|-----|
| スギ | 5% | 3% | 0% |
| ヒバ | 23 | 26 | 18 |
| アカマツ | 7 | 0 | 0 |
| 外材 | 64 | 22 | 15 |
| その他（新建材含） | 1 | 49 | 67 |
| 計 | 100 | 100 | 100 |

※ 参考 回答数 19社 19社 10社

表6 今後国産材の使用拡大を進めるとすればどんな注文・要望があるか

| | | | |
|---|-------------------------|-----|-------|
| ① | 乾燥材であれば使いたい | 16社 | (84%) |
| ② | 注文採材にすぐ応じられるようであれば使いたい | 11 | (58%) |
| ③ | 外材より国産材が安くなれば使いたい | 9 | (47%) |
| ④ | 外材と国産材が同価格くらいであれば使いたい | 6 | (32%) |
| ⑤ | まとまった量がすぐ手に入るようであれば使いたい | 4 | (21%) |
| ⑥ | 近くに国産材を扱う工場があれば使いたい | 2 | (11%) |
| ⑦ | 節など欠点がなければ使いたい | 1 | (5%) |

表7～表9は工務店からの自由な意見を聞いたものである。

表7 建築材に対して日頃どんな考えを持っているか

| | | |
|---|--|---|
| ① | 乾燥材の使用 | 4 |
| ② | 国産材も外材のように長さが自由にできれば良いと思う | 1 |
| ③ | 出来るだけ国産材を使用したい | 1 |
| ④ | 青森スギの販路拡大をお願いしたい | 1 |
| ⑤ | 良い材料が安く入れば在来工法住宅が多くなるのではないかと | 1 |
| ⑥ | スギ柱材に防腐加工をしてはどうか | 1 |
| ⑦ | 青森ヒバが高くなりすぎ地元で使えなくなっている。そのため土台角では代用品が出回り、今後これが主流をなしていくと思われる。ヒバ材の適正・安定価格を望む | 1 |

表8 建主にどのような家を勧めるか

| | | |
|---|---------------------|---|
| ① | 在来工法の家 | 2 |
| ② | ヒバ材使用の和風住宅 | 2 |
| ③ | 高断熱・高气密 | 2 |
| ④ | 国産材を使用した和風の在来工法 | 1 |
| ⑤ | 木材が多く見える家 | 1 |
| ⑥ | 耐用年数が長い住宅 | 1 |
| ⑦ | 和風・洋風両方が取り入れられている住宅 | 1 |
| ⑧ | プレハブ造り | 1 |
| ⑨ | 外観より間取りを重視 | 1 |
| ⑩ | 柱の見えない大壁の家 | 1 |

表9 その他の意見

| | |
|--|---|
| ① 良い材を外材より安く | 1 |
| ② スギ材をもっとPRしたらどうか | 1 |
| ③ 県産材50%以上の使用に対する県からの助成金の期間現在5年を 10年に延長してはどうか | 1 |

4 まとめ

以上がアンケートのとりまとめ結果であるが、各々の項目を拾いだしてみると、床面積は40坪から50坪の大きさで、外観は洋風タイプ、在来工法で施工し、構造材には外材、内装材に新建材を使用し、建主からは総額で依頼されるという構図が浮かび上がってくる。

当署の主力素材でもあるスギ材の使用については、構造材で5%、内装材で3%と極めて低い使用率となっている。

今後、スギの需要拡大を図るうえからは、乾燥材の供給が必須条件と思われる。素材供給側、製材業界とも乾燥材の供給拡大に努めていく必要があると考えるところである。更に、注文採材にすぐ応じられるような供給体制についても考慮すべきものと思われる。

当署では、国産材需要拡大の一つとして、キャラバン隊を編成し、管内の各地方自治体を訪問し、公共施設建設関係の方々を集まっていたいただき、その席上、持参した林野庁制作のビデオ「木を使って健康的な生活を」を上映し、関係者の理解と、需要拡大の運動も実施しているところであるが、更にターゲットを広げ、草の根作戦も展開していく必要があるものと考えるところである。

一般の商品は手にとって、品物を見てから買うが、一般の注文住宅は完成してからが形になって見える。場所によって樹種を指定する建主が11%いる実情から、国産材の良さが形となって見える、商品展示場の必要性もあるのではないかと考えられるところである。モデルハウス等からの情報発信サービスが、樹種指定のユーザー拡大、ひいては国産材拡大に結び付けられるのではないかとと思われる。

5 おわりに

20社と少ない調査数ではあったが、直接木材品を扱っている工務店の生の声を聞き、国産材の置かれている立場の輪郭がつかめた感じがするところである。今後の素材生産・販売に反映させていきたいと思うところである。